

【資本主義とは爆発的に複利でお金が増えることなのだ】

どうもゆうです！
読者さん、こんばんは！

さてさて、今日は「資本主義とは爆発的に複利でカネが増えること」
っていう話をしたいと思います。

というのは、日本にいて思うのが
「不景気だな～相変わらず」ってことでして、

私は日本に帰ってきたらタクシー運転手に景気どうでっか
とよく聞くのですが本当にみんな揃いも揃って景気悪いと
言うわけです。

最近のほかのアジア国はタクシー捕まえるのも難しい時もあるけど
(マレーシアではタクシー捕まえるのに40分かかったことある)

この前なんか土曜の夜で東京の街ではタクシーの客待ちの行列も
見ました。
(大阪のなんばでも)

こんなに不景気が何十年も続くと資本主義の喜び、性質を
知る機会は少なくなるわけだけど・・・

資本主義の性質ってのはやはり複利で爆発的に

資金が増えることなんです。

最近の新興富裕層30代前後はみんなこれを理解して
富裕層になってますね。

今号は以下のページでこの辺を考えて生きていきます！

【資本主義とは爆発的に複利でお金が増えることなのだ】

さてさて、今日は資本主義とは何か??っていうのをよく書いているのですが
その中でも「資本主義とは爆発的に複利でカネが増えていくこと」
っていう話をしたいと思います。

この資本主義でお金が爆発的に増えていく「感覚」ってのは
私なんかもそうだけど生まれたときから不景気の人たちってのは
知らないんですね。

だから30代とか40代以下の人はこの複利でカネが増えていく
感覚ってのは知りませんね。

けど実は富裕層に這い上がってきた人たちってのは
必ずこの「複利で爆発的に資金が増える」ということを
「体験」しているわけですね。

ちなみに、今の50代から上ってのはおそらく日本でも
金利が年利5%とかをついた時代を経験してるから
ちょっとはこの感覚を知っております。

これは以前書いたこちらの PDF 参照です。

けど、今の日本のインフォとかの投資とかビジネスで
成功して億を稼いでる人たち、私もそこに入りますが

この人たちはみなこの「爆発的に資金が「複利で」増えていく」
ってのを経験してるわけですね。

それで今地球上で最も成長しているのはやはり中国なんですよ。
中国の上海なんかはすごいですよ。

治安も良いですから、日本のテレビが海外は治安悪いとか言ってるの
普通に嘘なんで、それを信じないで行ってみるとよいです。

中国人たちも観光客には優しいし日本人にも優しいものです。
(価格交渉のときはどの国の人も同じく厳しいですけどね・・・笑)

それでやはり今の中国の成長度合いってすごくて
上海に何日間でもいいから行ったこと、滞在したことある人は
みんなご存知だろうけど

まあすごいわけでした
この「赤い資本主義」の中国がどんどん発展しているわけで
もういまや日本を抜いてますよね。

昔「中国は経済崩壊する」って言っていた人たちが多くいたけど

そこで私は自分で中国見に行つて

「中国はもっと発展する崩壊はしない」と書いていたのだけど

最早以前のように反論する人もいなくなってきたくらいです。

ちなみに北朝鮮の金正恩なんかもやはり北朝鮮にある種の民主制を敷いて

そこで中国のトウ小平がやったように

さっさと資本主義を導入していきたいわけですね。

それで成長とは何かって言うと「爆発」のことです。

この経済成長がなければ資本主義じゃないんです。

ちなみに日本は経済成長していませんから、だから

厳密な意味で資本主義じゃないんですね。

一応日本の社会体制は 社会主義がメインで、

そして封建制が入り込んでいて、

そこにちょこっと資本主義の要素が入っている体制です。

私が学校の先生なら生徒にそう教えます。

そして1週間でクビになるでしょう。

けど本当のことですね。

けど日本の教師たちは日本が資本主義で自由民主主義なんだ

とか嘘を教えるから

日本人たちもそれを信じ込んでるけど

やっぱり日本は皮肉でもなんでもなく、現実的に

社会主義体制がメインの国なんですね。

それでこの日本では100万円いれたらそれが

一気に1000万円に膨れ上がるとかそんなことを経験した人は

少ないはずなんですけども、

資本主義ってのはそういうものなんです。

資本主義には激しい金儲けへの熱狂があるわけですね。

これは去年、仮想通貨の熱狂があったと思います。

あれがずーっと続くような感じですが、例えるならば。

それでなぜお金が増えるのか？っていうと

正確に言うと「金利＝インタレスト」があるからなんです。

ちなみに金利は英語で **interest rate** インタレストレート

とか言いますが

「面白い」の英語は **interesting** なんですね。

金利の interest に ing がついてるわけですが

まさに金利でカネ増えて「面白い～」って感じですよ。

それでこの金利があると、銀行にカネを入れているだけで

それが土日だろうと祝日だろうと、金利がつくわけです。

マレーシアなんかだとマレー系の人たちには金利がずいぶんついていて

5%から7%とか金利がついてたりします。

100万円が10年置いておけばそこに複利が加わって

それが200万円近くになるわけです。

それでこの金利の話をする

「投資とはなんだ」って話になるんだけど

投資とは年利15%以上出せることが投資です。

複利を使って

5年で例えば100万円が2倍になるためには

年利15%が必要なんだけど

まあ最低年利15%以上は必要ってのが投資でして

これくらいないと世界の基準では投資って言わないんです。

実際にインドネシアあたりになると金利が10%以上付きますから。

それでこうやって5年で資金が倍になったりとか

そういうのを資本主義というのですね。

利子がついてるから資本がどんどん増殖しまして、

そこで社会が同時に成長していくっていうのが

資本主義の特徴で、その爆発力とか推進力ってのは

まさに「利子」なんです。

ちなみにこの利子ってのはユダヤの人たちに昔は

許されていたことなんだけど

だから資本主義ってのはユダヤ教の考え方を元にして

ってのも知っておいたほうがよくて

資本主義では合理的っていう考え方を使うけど

これが重要なんですね。

合理ってのは何かっていうと A 地点と B 地点があったとして

今 A 地点にいるとして、

この A 地点から B 地点にまっすぐ行くこと、これが

合理です。

逆に A 地点にいるのに、道草しながらぐにゃぐにゃ曲がって進むことを非合理的といいます。

資本主義ではこの合理がとても重要ですね。

だからなんとなく勇気が出ないよ〜とかそういうのでお金を稼ぐ行動が取れない人っていうのは要するに非合理的な人であって資本主義の人ではないんですね。

マインドブロックとか関係なくただただ合理的に生きる人これが資本主義の人です。

学校の宿題で言えば自分で頑張って宿題をするのではなくてお小遣いの500円を渡して秀才の A 君に宿題をお願いする人これがまあ合理的な人です。批判は大いにあるでしょうけども。

だから日本の学校では非合理的なことを教えているのだけどそれは社会主義だからですね。

実際は合理的な行動を取った人たちだけが複利を味方につけて儲かるわけです。

それで利子を取ることは以前は許されないことであって

中世ヨーロッパだと

「利子を取って貸付するのは許さん」

という状況だったんですね。

キリスト教のローマ教会とかがですね、12世紀とかに

「利子をつけてカネを貸すやつはキリスト教として埋葬しない」

とまで言った。

それでこの「利子をつけてカネを貸すやつはキリスト教で埋葬しない」

ってのは民衆にとっては恐ろしいことですね、

多くの当時の人はカトリックに洗脳されていて

本当に死んだらなんか死後の世界で

死んだら地獄に落ちるって思っていたわけです。

ここで民衆はひどくビビったんですね。

ただ当時は商業活動はとても流行していたから

だから利子っぽいものは結構あったんです。

だから利子を取らない代わりに手数料だとか

あとは貸付金の違約金だとか

あとは頭金の割引、

あとは為替とか、リスクプレミアムだとかですね、

まあ結果としては利子と同じお金を取っていたわけです。

それでここで両替商ってのが出てきて

そこで商人が物というよりはお金を売り買いして

そこで利益が出るようになったわけですね。

FXの原型がここにあると思います。

それで利子ってのはお金の値段のことで

これは副島先生が書かれてることなんだけど

まあお金には値段があるわけです。

変な感じですけども。

日本でも江戸時代の両替商がこういうことをやって

明治の近代銀行になっていったと。

副島先生によると室町時代にあった

土倉つちくら と、酒屋、油売りとまあ色々な

商人がいたけど

実態は金貸しだったと。

それで「利子を取るな」ってことに衝突いたのが
ルターです。

カトリックなんかはカネ稼ぎと性をひどく

悪いものとしていたんだけど

(今の日本と同じく。)

ここでルターが1571年に

「95か条の論題＝テーゼ」をお城の下の

扉に勝手に打ち付けて暴れたわけです。

ここでまあ結局ラテラノで宗教会議があって

渋々、「利子をつける貸付を認める」となったわけですね。

だからこのルターのプロテスタントの宗教改革宣言

ってのが人類史にとってはものすごく重要であると。

それでこのルターの「95か条の論題＝テーゼ」の中に

やんわりと、商人が商業で栄える自由とかあとは

利子をとる自由というものがどうも書かれていると。

またルターは僧侶であっても Sex をしますと。

だから尼さんと結婚して子供作ったんです。

ルターは結構当たり前のことを言っていて

「人間だれしも性欲もあって金稼ぎもする。

それを悪いというな」

ってことを言っているわけですが

そこで利子が公然と認められて今まで金貨のまま

貯められた資産ってのが

どんどん社会の所得循環の中に組み込まれたわけですね。

ここでお金がぐるぐると回りだしまして、

そこでお金の貸し手がいつの日か金細工商や両替商が

銀行になって、

そこにお金を預けるだけで人々は「利子」を手に入れるように

なったわけです。

そこでここで銀行は融資を行うのだけどそこで借りた人間は

必死にそれを銀行に返済しないとイケませんから

そこで必死に働くわけですね。

そして利子分以上の儲けを出さないといけないから
経済が拡大しないと返済できないわけです。

だから必死にみな頑張った。

そこでヨーロッパのきんだいの諸都市ってのが1500年代から
巨大成長を続けて

そこにユダヤ商人も集まりまして、ここで
ものすごい成長が起きたんです。

利子を生む資本があることで、そこで **GDP** はどんどん
拡大していくわけでした

そこでは好景気というのが存在するから
必然的にそこでインフレってのが起こってくるわけです。

ちなみに順序としては好景気(物が売れる)から
インフレですね。

これは読者さんが店主になったら分かりますでしょう？

例えばそうですね、飲食店をやっていたとします。

顧客単価700円でラーメンでも売って営業していたけど、
連日満員でお客さんが止まらない。

もう1時間行列が毎日です。

となると700円ではなくて800円に値上げしようかとなる。

好景気だから100円アップしたくらいでは
人の行列は止まらない。

こうやってインフレが始まるわけですが
根底には好景気ってのがあるわけですね。

これは商売やってる人ならみんな分かることなんだけど
いかんせん、今の日本はその感覚が分からないですから

インフレってのが好景気の原因があって
結果として出てくるってのを「肌で」分かっているひとは
少ないわけです。

んでインフレにするぞ〜って日本の経済新聞とか
経済学者(本当は頭良くない)が連呼していましたが
最近はまだインフレを最初に作っても意味がないって
ようやく気づいたようではなくなりましたが

日本なんかは「インフレを最初に作ったら好景気になる」
ってことをやりましたよね。

リフレ派ってやつ。

インフレターゲットとかなんとか。

あれは嘘である、ってのは

私は2013年から孤独に書いていたんだけど

もう最近では日本の勉強されていない経済学者さんたちも
気づきだしたようです。

イエール大学の浜田名誉教授もさすがに

それを言わなくなってきた。

まあだから好景気ってのがありまして、そこで

インフレが結果として起こるわけですね。

だから資本主義ってのは本来インフレでないといけない。

けど日本の場合には不景気でありますから、

そして金利は「ゼロ」なわけです。

だから金利がゼロで成長がないんですから日本は

厳密にいうと資本主義じゃない、

んですね。

ちなみに日本もヨーロッパも資本主義じゃないんです。

どちらかというと上に書いたように

利子が禁止されていたカトリック時代の中世ヨーロッパ時代に
戻っているという解釈があつてると思ひまして、

日本だと最近 なんか弁護士事務所が「グレーゾーン金利の
なんちゃらかんちゃらであなたの借りたお金は戻ってきます」
とか気持ち悪いCM やってますよね。

あれは日本政府っていうか官僚たちが
弁護士を大量に作ってしまったものだから彼らに仕事を
上げるために無理やり 社会構造を変えてしまったのが原因だけど

そこでまあ闇金ってのはかなり一掃されてしまったのだけど
ここである程度高い金利をつけて貸付するのは違法です、
ということになりましたよね。

だから金利をつけて貸付するのはダメなんですから

これは本質的にはローマカトリックの坊さんが商人に
金利つけて貸し付けるのを禁止していた

ヨーロッパ中世時代に戻ってきている感覚ですよ。

ちなみに日本では同じく性＝汚い というプロパガンダもされていて
山口達也なんかのあれがそうですが

みんな良い子ぶっちゃって性は汚い、みたいな感じで
バッシングしていたわけですが

最近性は取り締まるってのも日本でされているわけです。

だから中世ヨーロッパ時代そっくりなんですね。

それで日本はゼロ金利で金利をつけることも
許されない時代ですけど

その間に資本主義国として成長したのが中国です。

中国はこの30年間でなんと実質1000倍の成長を遂げた。
信じられない成長を遂げたわけですけど

この中国こそが皮肉にも資本主義の考え方だと
生き生きとした資本主義国なわけです。

一方日本なんかは最近では社会主義国、および共産主義国みたいになってきておりまして、

そこで経済は不況でデフレになってきておりまして
預金の利率は0.01%です。

それは貧乏な人増えますよね。

ちなみに私は今日本にいて、色々な人たちの会話を聞くのが
まあ楽しいんだけど

サラリーマンの2人組が話している

「もうカネないから最近では預金崩して生活してるわ〜」
みたいな話をしていました。

30代くらいだったかな。

「俺もさ〜小遣い全然もらえないんだよ。

ってというかクレジットカードの支払い滞納してるから
やべーんだよね」

とか、結構大きな声で話していました。

好景気な国だと出ない話題だな〜と私は感慨深く
聞いてました。

資本主義のこの複利の爆発的な資産増加ってのを
経験していない人ばかりであって

いまやゼロ金利の時代で、お金も銀行に置いていたら
手数料でマイナスであります。

「なんでこんなことになったの??」と本当にみんな
真剣に考えないといけないですね。

ちなみに韓国なんかは実際景気が良いんだけど
それは最近の KPOP の快進撃が世界中で起こってることから
薄々、韓国嫌いの人たちも気づいてきている。

中国、韓国大嫌いと言ってきたのに
とりあえずもう中国の GDP は日本の倍以上になってしまっ
て
また韓国の一人当たり GDP はもう数年内に日本を抜くよ
と私はもう2010年代最初から書いていて

そこで怒っていた人たちも薄々そうなるんだらうと気づいてきてます。

そんで韓国の預金金利はいくらつくか?っていうと
定期で大体2%とかは付くんですね。

だから日本の100倍とかです。

だから最近の韓国人たちはお金持っています。

はて、何故日本だけがこんなゼロ金利??ってことなんですけど一言で言うとこれが敗戦国だ、ってことですね。

ただ、トランプ大統領が米国覇権を自滅させて日本の官僚機構に攻撃を加えてくるのは目に見えてるので(まだマスコミはその流れを報道してないけどそうなるから見ておいて下さいよ)

そこで米軍なんかが2020年代にアメリカに戻って行ったあとようやく日本は社会主義体制から資本主義体制を北朝鮮に遅れて、取り入れられるかもしれませんね。

その時にようやく成長が始まる可能性はあるといえはありますがただいつなのかは不確定です。

そしてその成長の前に一度社会を揺るがす大きな崩壊を経験しないと成長軌道に乗れませんから、それをおそらく日本では経験することになるだろうと思います。

富裕層たちはそれを想定してるから金＝ゴールドを買ってる
っていうこともあります。

それで・・・

「日本は資本主義じゃないっていうんなら
どうすればいいねん？」

ってことになるわけですが

実はそんな中でも成長している業界ってのが
一部あるんですね。

このインフォ業界だってそうですし、あとは
投資とか投機でもお金は増やせます。

まあ制約、規制が緩い業界が成長します。

ずばりそういう業界で「複利」が働きますね。

それで重要なのは以前書いたけど

やっぱり「マネーボックス」を持つのが大事ですね。

月利10%を「継続する」ってのはすごいことなんですよ。

複利とは何か？というと

月利10%を例えば複利で5年間回したとしますと

それは60ヶ月分だから1.1の60乗ですから

304倍になりますね。

「304倍??それエイダコイン?」とかみんな

思うだろうけど、

いえいえ、月利10%を60ヶ月続けたら

300倍になるんです。

別にエイダコインを買えなかったとしても

月利10%をコツコツ積み上げられる能力があれば

100万円原資の人なら3億円にはなるわけですね。

まあ税金は取られるでしょうが、1億円以上は残るでしょう。

それでこういう投機のスキルってのがありますが

それがある種の「ボックス」となってそのボックスに資金を

投入していったら複利でどんどん増えていく

っていうのが大事でこのボックスを強力にするために

「学習」が大事ってことですね。

ちなみにこれはFXだけにあらず、でして

転売とかもそうですね。

転売で稼げるスキルがあるってのは

投資金(仕入れ)10万円に対して、

売り上げを30万円とか出せるスキルです。

大体全部売れるのに3ヶ月として3ヶ月で

3倍とかにできるスキルです。

ちなみに宣伝ですが私のビジネスの先生のウメさんが

そういう転売のスキルを学べる場所を作ってるから

良かったら学んでください

まあだからその投じたお金がさらに大きくなって返って来る

こういうボックスを作るってのがとても大事で

今の30代前後の新興富裕層の人たちは「必ず」このボックスを

100%持っています。

IT系も投資系も全部一緒です。

投じる資金が 証券会社の口座なのか、
もしくは広告なのか、転売商品なのか、
だけの違いですね。

基本的には「複利」がそこに利いてるかどうかだけでして
逆に言うと 今貧乏な人がのし上がるためにはこの
複利で増やせる「ボックス」があるかないかだけ、なんですね。

お金がない人は「ボックス」がないだけです。

「お金を増やせるボックスがない」ってことは
すなわち勉強していない、カネのことを真剣に学んでない
ってだけですよね。

ただそれは実際に学べばその「お金が増えるボックス」
は作れるわけなので

それができればもう楽チンでして、

ただお金をどんどんそこに毎月積み立てていれていけば
お金は増えていくわけです。

それで日本でビジネスや投資をやる場合と、

中国やマレーシアでビジネスや投資をやる場合、

違いはなんでしょう？？

日本の経済成長率は実質はほぼ0%ですよ。

公共事業でかさ上げしててたまされそうだけでも

実際はほぼ無成長。

一方中国もマレーシアも5%以上の成長率はある。

そう、ここで重要なのは中国とかマレーシアとか

そういうところでビジネスをするのは

やっぱりイージーだと思います。

私は株やっていてわかるんだけど本当にイージーなんです。

日本の場合利益を出すなら相当綿密にフィルタリングしないと

稼げませんが

成長国だと結構いい加減なフィルタリングのかけ方で

稼げちゃいます。

「投資で稼げない」って人は10年持つ覚悟で

一度新興国も崩れるだろうけど崩れたときに

新興国の株を買って長期保有すると良いと思います。

ここで「経済成長とはなにか」が分かります。

配当金だけでも5%以上出す企業が多いですね。

まあだから要するに経済成長している国だと

あまり考えなくても儲かってしまうってのがあるわけです。

飲食店なら日本だと最高のサービス、最高の味じゃないと

集客はできないかもしれないけど

成長国だと まあまあな味のところが結構繁盛したりしてます。

だからフィルターが甘くても成功しちゃう確率が上がるのが

甘いといわれるかもしれませんが

やっぱり成長国の特徴としてあるのは間違いがない。

けど日本の場合には全体として経済成長できてません。

だからまず取り組む分野の選定がめちゃくちゃ大事になりますし

人々はお金がなくてお金使えないのだから

そこでサービスも強力である必要がありまして

今日本で利益出てる企業はめちゃくちゃ優秀な企業なわけですね。

個人においても。

これが世界で勝負したら、相当強い競争力を言語の壁はあっても
発揮するでしょう。

だから「経済成長ゼロで金利ゼロの国で複利で利益出す」
って並大抵のことではないって分かると思います。

だから相当に学ぶことは大事になるわけですけど
特に勝負する市場選定は大事で

市場はやはり規制が薄い業界が良いわけですね。

それで「投機と投資」があるのだけど

日本はやはり全体的なマクロで言うと成長していない国だから
現状では投資には向いていないわけですね。

官僚機構が破壊されたらいずれ投資適格のある国になるかも
しれませんが、

社会主義の土壌の国ではやはり資本主義の投資は勝負しづらいと。
だからバフェットは日本には投資しないわけですね。

ただ投機となると別でありまして、

投機の場合の短期決済ならまあ利益は出せるわけですから

そもそも国境関係ないわけですから

日本人は投資はきついで投機ならまあ利益出せる
ってことで投機熱が日本は高いってのはあると思います。

だから投機スキルってのは日本においては大事なのかなって
私は思った次第です。

あとは転売とかは利益出るジャンルですから

ここで10万円投じて30万円の売り上げで戻ってくる
っていう経験を積み重ねて

それで30万円が次は100万円になって・・・

とかですね、こういう複利の爆発性を「体感」してみるのが
とても大事で

それが結局金持ちたちがやってきた複利の回し方です。

この複利が出るマネーボックスを

「自分自身で」作れるかどうか？

ってのが今の日本の格差になっているとも思いますね。

成長国ならこのマネーボックスが普通に銀行にあるんです。

定期金利組んだら誰でも年間5%とか7%とかついてしまう。

けど日本の場合銀行はダメですから

だから自分でマネーボックスを作る必要はあるわけですね。

大きくこういう考え方があると成功しやすいと私は思います。

また上の「日本は成長国じゃなくて資本主義じゃないってなら

どうすればいいんだよ」

っていう突っ込みも実は結構色々方法はありまして

日本でそういう複利が利くマネーボックスを作る以外にもあるんですよ。

それが「海外株使える証券会社で海外の企業に投資する」

ってもので

これは今の日本では投資家の中でやってる人は少数だけど

普通にできます。

例えばインドネシアの企業なんかだと配当金10%以上出す

企業ありますが

日本の証券会社ならインドネシアのルピーを購入して

それで株を買って彼らの成長にあやかることもできますね。

株を買うってのは実際の話は

「合法的な金貸し」なんだけど

今の時代は成長してる国に日本人でもカネ貸しが

「株」っていう表向きの言葉を使えばできるっちゃできるんです。

だから株ってのは本質的には金貸しなんだけども

やっぱり面白いのが利子じゃなくて「配当金」とか言ったりするのが

面白いですよ。

だから日本人でもちょっと知識があれば

経済成長率が高い国の企業さんにお金を貸せるわけで

そこで金貸しできるんです。

これを私が20代とかだったら絶対やりますよね。

これ20代からやれば一度暴落したとしても

アジア国は日本以外は

長期保有で這い上がってくるのは間違いないので

誰でもある程度の資産を30代では形成できるでしょう。

こういう大きな視点で資金運用を考えていくのは大事かなって

経験上思います。

それで「複利で」お金が増えるこの「体感」は
文字では伝えられないところで

「自分で経験しないと分からない」んです。

複利でお金が利子付きで増える。

利子とはインタレストで まさにそれが発生したら

インタレスティング＝面白い 感覚ですけども

これを体験できるかどうか、ですよ。

だから上記の書いたようなことを実践してみて

体感してみると良いと思います。

あとは、贅沢しないでただただ複利でお金回してくださいで

資金はどんどん複利で増えていきますから

これを体感するのが大事でしょう。

ということで資本主義が日本では正常に回っておりませんで

社会主義国家化してますが

そんな中でも資本主義ルールを活用する方法は

隠されてるだけであるっちゃありますので

それを見つけて、集中していけば事態は打開できるものですね～

そして事態を打開するためには

全体像の把握＝俯瞰ふかん が大事なので

上記のような俯瞰する知識はとても大事なんです。

そして例えば上の文章には自動売買ポートフォリオのことも

書いてるけど結局そのポートフォリオが「ボックス」になるわけで

それを作るって発想なわけですね。

それではまた！

ゆう